“石灰化” と診断された方へ

初めて石灰化と診断された方、検診で毎回石灰化を指摘される方、経過観察をしている方へ。
石灰化とは何なのか、なぜ経過観察が必要なのかについてまとめました。

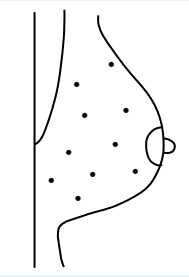
どうして石灰化ができるのでしょうか？

乳房内では、乳汁などの分泌物がつくられます。
石灰化は、この分泌物中のカルシウム成分が沈着してできたものです。
石灰化は、主に古い母乳の名残、古い良性腫瘍、血管壁、またはがんの一部のどれかです。

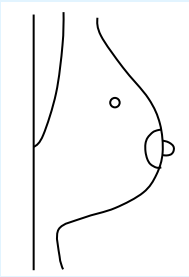
石灰化には、心配のいらない石灰化とがんの疑いがある石灰化があります。

石灰化は、マンモグラフィで白く点状に見えます。エコーではほとんど見えません。
良性石灰化と悪性石灰化の見え方には違いがあります。

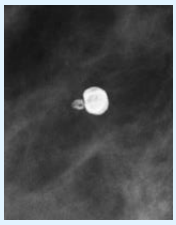
－良性の例（心配ない石灰化）－



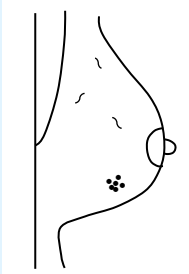
小さい円形。
全体に散っている。



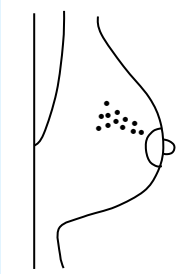
大きいかたまり。
主に古い良性腫瘍。



－悪性の例（がんの疑いがある石灰化）－



線状･細かい石灰化。
親指大に集合。



乳頭を中心に扇形。
乳管に沿っている。

これらの石灰化は年々、形・大きさ・数などが変化します。

石灰化がよく見えるマンモグラフィ検査を行い、形状に変化がないか、年に１回の観察が必要です。
もし変化があった場合は、心配ない石灰化なのか、がんの疑いがある石灰化なのかその都度判別します。
この定期検診が、早期乳がんの発見につながるのです。
（石灰化の微妙な変化を比較して診断するため、同一施設での検査継続をおすすめします！）

さらに、がんは痛みがほとんどないため（かなり進行したがんは痛みを伴うこともある）、早期のうちに自覚症状で気づける方は非常に少ないです。
早期で発見するための検診です。経過観察をしっかり受けましょう。
40 才を過ぎたら年１回のマンモグラフィ検査を受けましょう！

次回は、（　　ヶ月後　）に受診してください。

（　マンモグラフィ　・　エコー　）を行います。

湘南みわクリニック
SHONAN MIWA CLINIC